ヲ認定シタルトキハ裁判所ハ被告人トシテ該取締役ノ名儀ヲ判文ニ掲載シ同會社ヲ處罰スル旨ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス（明治三十八年十月十六日宣告）

煙草專賣法第六十六條同趣旨

上告趣意

被告ノ上告趣意書ハ凡ソ會社ハ其目的ノ範圍内ニ於テノミ法人タル資格ヲ有スルモノニシテ法律假想ニ因リテ創設セラレ人格ヲ附與セラレタル無形人ナリトス然リ而シテ無形人ハ刑法上ノ責任ヲ負擔スヘキモノニアラス何トナレハ無形人カ自ラ活動スルノ能力ヲ有セサルカ故ニ其法律上ノ活動ヲナスニハ必ス有形上ノ人ヲ以テ其代表者ト爲サヽル可カラス無形人已ニ自ラ活動スル能ハス有形人ノ共助ヲ必要トスルトキハ無形人自ラ犯罪ヲ行フ能力ヲ有スルモノニ非ス其行フ者ハ必ス有形ノ人タラサルヘカラス且ツ前述セル如ク會社ハ其目的ノ範圍内ニ於テノミ人格ヲ有スルモノニシテ其目的外ニ於テハ會社ナク人格ナク從テ代表者ナシ故ニ假令無形人ノ名儀ヲ以テ罪ヲ犯スモノアルモ責任ノ歸スル所ハ個人タル有形人（現實罪ヲ犯シタル）ナリトス然ルニ本件ニ於テ日本酒造株式會社支配人風間守太郎一個ノ行爲ニ基ク犯罪事實ニ於テ同社專務取締役トシテ被告ヲ處罰セルハ刑法上ノ原則ニ違背セル不法アルモノトスト云フニ在リ」

辯護人高梨恂一上告趣意辯明書第四點ハ凡ソ刑事法上ノ原則トシテ犯罪者トシテ其責任ヲ負擔スルハ被告本人タラサルヘカラス即チ刑事裁判ノ目的ハ被告人ハ罪ヲ犯シタリヤ否ヤ犯シタリトスレハ如何ナル刑罰ヲ科スヘキヤニアリトス依テ被告甲某被告事件ニ於テ被告甲某トシ一判決文ニ於テ被告甲某ニ關スル事實理由從テ法條ノ適用ナク其主文ニ於テ乙某ヲ處罰セリトセンカ何人モ其違法ニ驚カサルモノナカルヘシ而シテ本件ニ關シ東京控訴院ハ明治三十三年法律第五十二號ヲ誤解セル結果此驚クヘキ違法ヲ敢テセリ即チ原判決ハ被告ヲ有形人タル日本酒造株式會社專務取締役三宮保太郎ト爲シ其主文ニ於テハ法律上全ク被告人ト別人タル無形人日本酒造株式會社ヲ處罰シタリ則チ一判決一犯罪ニ於テ被告甲某ヲ處罰セスシテ全ク被告タラサル乙某ヲ處罰シタリ蓋シ刑法上ノ原則トシテ無刑タル法人ハ其行爲能力ヲ欠缺セサルヲ以テ犯罪責任ヲ負擔セサルコト本件本人提出上告趣意書ニ於テ論辯セルカ如シ然レトモ斯テハ法人代表者ノ犯罪行爲ヲ奬勵スルノ恐アルヲ以テ明治三十三年第五十二號ノ發布トナリ法人ノ代表者等ニ於テ法人ノ業務ニ關シ租税其他ノ諸法規ニ違反シタル場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人ト爲シ右被告

人タル代表者ヲ其代表者タル資格ニ於テ處罰スルコトヽ定メタリ蓋シ刑事裁判ノ目的ハ前述セル如ク被告人ヲ必要條件ト爲スヲ以テ便宜上斯ク定メタル次第ナリ則チ法律上法人並ニ其代表者ハ形體ヲ異ニシ且ツ能力ヲ異ニスルヲ以テ法人並ニ其代表者ノ別異ナルコト勿論ナルモ處罰ノ必要且ツ便宜上其代表者ヲ被告ト爲シ之ヲ處罰センコト明治三十三年法律第五十二號ノ法意ナリトス然ルニ原判決ハ右法意ヲ誤解シ有形人タル專務取締役三宮保太郎ヲ被告ト爲シナカラ被告ヲ處罰セスシテ日本酒造株式會社ヲ處罰セルハ明治三十三年法律第五十二號ヲ誤解セルノミナラス判文ノ體ヲ爲サヽル違法ノ甚タシキモノトスト云フニ在リ

判決理由

明治三十三年法律第五十二號ハ第一條ニ法人ノ代表者又ハ其雇人其他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅及葉煙草專賣ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ通用ス云々ト規定シ以テ右法令違犯ノ所爲ニ付法人ヲ處罰スヘキ旨ヲ明示シ第二條ニ法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トスト規定シ以テ法人ノ爲メ事實上被告人トシテ審理及判決言渡ヲ受クヘキ責任者ヲ定メ法人處罰ノ手續ヲ明カニシ其目的ヲ達スルコトヲ期シタルモノナレハ原院ニ於テ本件酒造株式會社ナル法人ノ代表者タル專務取締役三宮保太郎ヲ被告人トシテ審理ヲ遂ケタル末同會社ノ支配人風間守太郎カ同會社ノ業務ノ執行トシテ酒造稅法ヲ犯シタル事實ヲ認定シ被告人トシテ同會社專務取締役三宮保太郎ノ名儀ヲ判文ニ掲ケ同人ニ對シ同會社ヲ處罰スル旨ノ言渡ヲ爲シタルハ右法律ノ規定ニ適合セルモノニシテ本論旨ハ不當ナリ

2、法人其他ノ者カ他人ノ犯罪行爲ニ付キ責任ヲ負フ場合ニ關シ法人ノ犯罪及他人ノ犯罪ニ付キ其處罰ヲ受クヘキ場合ノ件

（明治四十一年十一月七日委員會決議 法曹記事十八卷第十號）

現行法規中ニハ法人ノ犯罪能力ヲ認ムルモノナシト雖モ法人及自然人ニ他人ノ犯則行爲ニ付テ刑責ヲ負擔セシムル場合アリ而シテ此責任ハ犯則者ノ選任及ヒ監督ニ關スル過失ノ有無ニ關係ナキモノトス

問題

左記問題ニ付キ詳細ナル回答煩ハシ度候

第一　法人カ犯罪ノ主體ト爲ル場合アリヤ

第二　法人ノ犯罪ニ付キ人又ハ法人カ其罪責ニ任スヘキ場合アリヤ

第三　左記ノ法律ハ果シテ第一第二ノ場合ニ該當スル一ナリヤ否ヤ

第四　左記ノ法律ニ於テ其責ニ任スル者ハ何レノ場合ヲ問ハサルカ即チ選任監督等ニ付些少ノ不注意ナキ場合（注意スル能ハサル狀況ニ在リタル場合ヲモ包含シテ云フ）ニ於テモ尙其責ニ任スヘキカ

一　葉煙草專賣法（明治二十九年三月法律第三十五號）

第二十八條　葉煙草ヲ耕作スルモノ又ハ煙草製造ヲ業トスルモノ又ハ葉煙草賣買ヲ業トスル者ハ其代理人、家族、同居者、雇人ニシテ其業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ自已ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

二　酒造稅法（明治二十九年三月法律第二十八號）

第三十二條　酒類ヲ製造スル者ノ代理人、家族、同居者、雇人其他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ此稅法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自已ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ此稅法ノ處罰ヲ免ル、コトヲ得ス

三　醬油稅則（明治二十一年六月勅令第四十七號）

第二十五條　醬油製造人ノ家族、雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歲未滿ノ幼年者及癲癇白痴又ハ瘖啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

決議

現行法規中ニハ法人ノ犯罪能力ヲ認ムルモノ爲シト雖モ法人及自然人ニ他人ノ犯則行爲ニ付テ刑責ヲ負擔セシムル場合アリ而シテ此責任ハ犯則者ノ選任及ヒ監督ニ關スル過失ノ有無ニ關係ナキモノトス

理由

明治三十三年法律第五十二號同年法律第五十九號及ヒ其他ノ法規中法人ノ處罰ニ關スル規定ハ特ニ法人ノ犯罪能力ヲ認メタルモノナリヤ將タ雇人等ノ犯則行爲ニ付テ其刑罰責任ノミヲ法人ニ科スル例外規定ナリヤ學者ニ依リ其見解ヲ異ニスト雖モ此等ノ規定ノ文例ニ依レハ法人ノ業務ニ關シ其代表者又ハ雇人其他ノ從業者該法令ノ罪ヲ犯シタルトキハ其罰則ヲ法人ニ適用スルモノナルカ故ニ罪ヲ犯シタル者ハ從業者ニシテ罰ヲ受クル者ハ法人タルヘキコト明カナルノミナラス此等ノ法規ノ制定當時ニ於テ本邦ノ學者及ヒ立法者ノ採用シタル法人擬制說ヨリ觀察スルトキハ此等ノ規定ニ依リ法人ニ罪ヲ犯スノ能力アルコトヲ認メタリト推斷スルノ不當ナルハ益々明白ナリ要之此等ノ

規定ハ取締ノ目的ヲ達スル爲メ從業者ノ犯則行爲アル場合ハ其刑ヲ法人ニ科スルニ過キサルモノトス

以上ノ説明ニ依レハ法人カ其業務ニ關シ從業者等ノ行爲ニ付責任ヲ負フヘキ場合アルハ明カニシテ此規定スル法令ハ前掲ニ法律ノ外屠場法(第十六條)鐵道船舶郵便法(第十九條)漁業法(第三十條)畜牛結核豫防法(第十九條)煙草專賣法第(六十六條)明治三十六年内務省令第十號飲食物防腐取締規則等ヲ始メトシ其他茲ニ列擧スル遑ナシ又例外トシテ自然人カ他人ノ犯則行爲ニ付キ刑責ヲ負担スル場合モ現行法規ノ認ムル所ニシテ質疑中ニ列擧シタル法令モ此部類ニ屬スルモノナリ但明治三十三年内務省令第二十五號ノ規定ハ營業者カ男女混浴ノ裝置ヲ爲シ又ハ混浴ノ事實ヲ具體的ニ若クハ概括的ニ知レル場合ニ非サレハ適用ナキモノト解スルヲ至當トスルカ故ニ此部類ノ法令ニ屬セサルモノト認ムヘシ

而シテ以上ノ法令ハ取締ノ目的ヲ貫徹スルニ急ニシテ民法第七百十五條ニ於ケルカ如ク本人ノ不注意ヲ以テ責任負担ノ一條件ト爲スコトナク絶對的ノ規定ヲ設ケタルカ故ニ從業者等ノ選任及ヒ監督上ニ於ケル不注意ハ何等ノ關係ナキモノトス

3、法人合併ノ場合ニ於ケル刑事法ノ取扱方

法人カ合併セラレタル場合ニ於ケル刑事法上ノ取扱ニ關スル疑義ノ件

(大正三年七月二十三日甲第二八七號福岡地方裁判所檢事ノ法曹記事第二十五卷
(事正照會同年八月十二日刑甲第二〇一號法務局長回答)第十一號

問　合

法人ヲ罰スヘキ刑事事件(漁業法違犯等)ニ付其訴追ヲ受ケタル會社カ審理中他ノ會社ニ合併セラレタル場合ニ於テ刑事訴訟法上之ヲ如何ニ處置スヘキカノ問題ニ關シ

甲説ハ被告會社ハ合併ニ依リ消滅ニ歸シ本件ハ之ト同時ニ其受刑ノ主體ヲ喪ヒタルモノナレハ彼ノ自然人ノ死亡ニ因ル公訴權消滅ノ場合ト等シク判決ヲ爲サスシテ事件ヲ終局セシムヘキモノナリト云ヒ

乙説ハ商法第八十二條ノ特別規定ニ依リ合併會社ヲシテ其前身タル會社ノ權利義務ヲ承繼セシメタル法意ヨリ視レハ其承繼義務ノ範圍タル當ニ私法上ノ義務ノミニ止マラス公法上ノ義務タル刑事ノ責任ヲモ包含セルモノト解釋シ合併會社ニ對シ處罰ヲ科スルヲ相當ナリトス否ラサレハ多額ノ罰金ヲ科セラルヘキ虞アル會社ニシテ若シ其刑罰責任ヲ免レント欲セハ何時ニテモ他ノ會社ニ合併シ容易ニ其目的ヲ達スルコトヲ得ヘク如斯ハ法人ニ對シ

刑罰ヲ科セントスル法律ノ精神ヲ滅却セシムルニ至ルヘシト云フニ在リ
右両說中孰レヲ可トスルヤ貴局ノ御意見承知致度御問合候條理由ヲ附シ何分
ノ御回報相煩ハシ度候也
追テ本件ハ差掛リタル現實問題ニ有之至急御回報相成度申添候

回答

客月二十三日附甲第二八七號ヲ以テ法人合併ノ場合ニ於ケル會社ノ刑事法上
ノ取扱方ニ付キ御問合ノ趣領承
會社ノ合併ハ會社解散ノ一事由ニシテ解散會社ノ權利義務ハ併呑會社ニ移轉
スルモノナルコト商法ノ規定スル處ナレトモ科罰義務ハ其性質上右權利義務
中ニ包含セサルモノナルコト勿論ナルヲ以テ解散會社ノ爲シタル犯罪ニ付併
呑會社ハ科罰ノ責任ヲ有スルモノニ非ラス結局貴見甲說ノ如ク取扱フヘキモ
ノト致思考候條此段及回答候也

4、準用ト適用トノ差異(攻究)

準用ト適用トハ同一意義ナリヤ

答

同一意義ニ非ラス

理由

準用又ハ適用ナル文字ハ民法其ノ他各種法典中ニ於テ往々見ル所トス而シテ
準用又ハ適用ナル規定ハモト立法上ノ便宜ヨリ出テ即チ同一又ハ類似ノ事項
ヲ重復ニ法文ニ規定スルカ如キハ徒ラニ法文ノ錯雜ヲ來スニ過キサルヲ以テ
之ヲ用ヰタルニ過キス而シテ其ノ差異ヲ求ムレハ適用ハ甲規定ノ趣旨ヲ直チ
ニ乙規定ニ應用スルモノナルモ準用ハ其ノ性質ノ適合スル限リ換言スレバ取
捨撰擇ヲ用ヒテ甲規定ヲ乙規定ニ適用スルノ義ナリ本條ノ所謂準用ナルモノ
ヲ間接國稅犯則者處分法ニ對照シテ觀察スルニ處分法第二十條ノ如キハ全ク
煙草專賣法ニ應用スルコトヲ得サルヘク又同第十四條第十七條ノ稅務署長ノ
職權ノ如キ又同法中ノ收稅官吏ノ如キハ專官制ニ關係アルヲ以テ直チニ專賣
官吏ニ應用スルコトヲ得ス故ニ此等ハ更ニ特別ノ法令ト相待ツテ準用ノ目的
ヲ達スルコトヲ得ヘシ

第六十七條　間接國稅犯則者處分法ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ違犯
事件ニ之ヲ準用ス但シ同法ニ定メタル職務ヲ行フ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

1、專賣局屬ニ關シ

間接國稅犯則者處分法施法規則準用並ニ收稅官吏又ハ稅務署長

ニ屬スル官吏指定ノ件（明治四十年九月勅令第三一一號）

煙草專賣法第六十七條但書、鹽專賣法第三十八條第二項、粗製樟腦樟腦油專賣法第二十三條第二項ニ依リ間接國稅犯則者處分法中收稅官吏ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ專賣官吏、收稅官吏、稅關官吏、警察官吏又ハ森林官吏トシ稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ稅關官吏ノ發見ニ係ル違犯事件ニ關シテハ違犯事件發見地ヲ管轄スル稅關長トシ其他ノ官吏ノ發見ニ係ル違犯事件ニ關シテハ違犯事件發見地ヲ管轄スル專賣支局長トス但鹽稅ノ犯罪ニ關スル場合ハ此限リニアラス

煙草專賣法、鹽專賣法、粗製樟腦樟腦油專賣法違犯事件ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法施行規則ヲ準用ス

1、專賣局屬ニ關シ

判決要旨

煙草專賣局屬ハ煙草專賣官吏ナルヲ以テ間接國稅犯則者處分法中收稅官吏ニ屬スル職務ヲ行フコトヲ得ヘキモノトス

上告趣意

第二點ハ本件ハ告發ノ手續ヲ誤リタルモノナリ其理由ハ間接國稅犯則者處分法ニ犯則者アルトキハ稅務署長カ告發スヘキモノ而シテ其稅務署長ノ職權ハ煙草專賣法ニ於テハ收納所長之ヲ行フトノ規定アリ然ルニ本件ハ煙草專賣局ノ屬官加藤政清外四名ニ係ルモノニシテ告發ノ手續ヲ誤リタリト云フニ在リ

判決理由

間接國稅犯則者處分法第十三條ニ規定セル三箇ノ場合ニ於テハ收稅官吏カ直チニ告發ヲ爲スノ職責アルコトハ同條ノ明文ニ徵シ明瞭ニシテ該處分法ハ煙草專賣法第六十七條ニ依リ同法ノ違犯事件ニ準用セラレ煙草專賣官吏ハ明治三十七年勅令第百六十四號ニ依リ間接國稅犯則者處分法中收稅官吏ニ屬スル職務ヲ行フヘキモノトス而シテ煙草專賣局屬加藤政清外四名ハ煙草專賣官吏ナレハ同人カ本件ニ付證據湮滅ノ虞アリトシテ直チニ告發ヲ爲シタルハ適法ナルヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由ナシ

間接國稅犯則者處分法中主ナル判例

1、第一條差押ノ效力

稅務署官吏カ差押ヲ爲シタルトキハ其差押物件ハ之ニ依リテ直ニ被差押人ノ占有ヲ離レ差押人ノ占有ニ移ルモノニシテ其物件ヲ他ニ移スト否ト又之ヲ他

人ニ保管セシムルト否トハ差押ノ効力ニ何等ノ影響ナシ（大正三年四月二十一日（れ）第六十八號判例）

理由

差押物件ハ差押ニヨリテ直ニ被差押人ノ占有ヲ離レ差押人タル税務署官吏ニ移ルヘキモノタルハ其差押ヲ許シタル法律ノ精神上疑ヲ容ルルノ餘地ナク其物件ヲ他ノ場所ニ移スト否ト又之ヲ他人ニ保管セシムルト否トハ差押ノ効力ニ何等ノ影響ヲ及ホスヘカラサルヲ以テ原判決ハ所論ノ如キ不法アルモノト謂フヲ得ス

2、第二條收税官吏捜索權ノ範圍

間接國税犯則者處分法第二條ハ包括的ニ收税官吏ノ捜査權ヲ認メ捜索ノ方法ニ付キ何等ノ制限ヲ付セサレハ收税吏ハ家宅内ノ或場所ナルト其住居人ノ身體タルトヲ問ハス藏匿セラレタル證憑物件ノ所在ニ就テ捜索ヲ爲シ得ヘキモノトス（明治三十七年十一月七日（れ）第二〇三三號判例）

理由

間接國税犯則者處分法第二條ニ「收税吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿書類等ヲ藏匿スト認ムル場所ニ臨檢シ捜索ヲ爲スコトヲ得」トアリ法律ハ一般的ノ文詞ヲ用ヰテ包括的ニ捜索權ヲ收税吏ニ認メ捜索ノ方法ニ付キテハ何等ノ制限ヲ附セサルヲ以テ收税官吏ハ藏匿セラレタル證憑物件ノ所在ニ付キテ捜索ヲ爲スコトヲ得ヘク其物件ノ藏匿シアルハ家宅ノ或場所ナルト其住居人ノ身體タルトハ問フコトヲ要セサルモノト解釋スヘク本件ノ如ク犯罪ノ證憑トナスヘキ物件ヲ人ノ懷中ニ藏匿シタル場合ニ於テハ懷中所在ノ物件ニ付キ押收ノ手續ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論ニシテ其物件カ人ノ懷中ニ存在スルノ故ヲ以テ拱手傍觀シテ之ヲ不問ニ付スヘキモノニ非ラス况ンヤ本件捜索ノ目的タル澁紙貼小箱入ノ帳簿ハ始メヨリ市川初次郎妻ノ懷中ニアリタルニアラスシテ同人ハ收税官吏タル木村寅之助カ既ニ捜索ノ執行ニ着手シタル後ニ於テ其執行ヲ免ルヽノ目的ヲ以テ該帳簿ヲ懷中ニ隱匿シタルモノナルコトハ原院ノ認ムル所ノ事實ナレハ之ヲ押收スルハ其職務當然ノ措置ニ屬シ「ハツヱ」ノ身體ニ對スル捜索ノ處分ヲ必要トスルニ至リタルハ不法ニ執行ヲ免レントシタル「ハツヱ」カ自ラ招キタル結果ニシテ收税官吏ハ其執行處分ニ對シテ「ハツヱ」ノナシタル妨害行爲ヲ排斥シ其執行手續ヲ完了セント試ミタルニ過キサルヲ以テ之ニ對シテ不服ヲ唱フルコト能ハサルニ於テオヤ故ニ本論旨ハ謂レナシ

3、第三條參考人ノ尋問手續

判決要旨

稅務屬カ酒造稅法違反事件ヲ調査スル爲メ參考人ヲ尋問スル塲合ニ於テハ法定ノ立會人ヲシテ立會セシムヘキモノニ非ス（明治三十七年三月二十四日判例）

判決理由

原判決ニ證據トシテ採用シタル夏梅竹松ノ尋問顚末調書ハ稅務屬丸山松三郎ニ於テ竹松カ高橋マス方門前ニテ濁酒入伊川樽五本ヲ積ミ直シ居ルヲ見テ同人ニ對シ訊問ヲ爲シタル顚末ヲ記載シタルモノニシテ家宅倉庫等ヲ搜索シタル塲合ニアラサルヲ以テ間接國稅犯則者處分法第六條ノ規定ニヨリ法定ノ立會人ヲシテ立會ハシトヘキモノニアラス故ニ本論旨ハ理由ナシ

4、同條犯則嫌疑者ノ尋問手續

判決要旨

間接國稅犯則者處分法中收稅官吏ノ行動ニ立會人ヲ要スルハ其第六條ノ搜查權ヲ行フ塲合ニ限ルモノトス從テ收稅官吏カ立會人ナクシテ犯則嫌疑者ヲ尋問スルモ違法ニ非ス（明治三十七年七月二十六日判例）

理由略

5、第四條身分證明ノ證票ヲ携帶セスシテ爲シタル處分ノ效力

判決要旨

間接國稅犯則者處分法第四條ニ基キ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘキコトハ訓示的規定ニ過キサルヲ以テ之ヲ携帶セスシテ爲シタル處分ハ無効ニアラス（明治四十二年十二月十四日判例）

上告趣旨

間接國稅犯則者處分法第四條ニハ收稅官吏臨檢搜索尋問又ハ差押ヲ爲ストキハ其身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシトアリ然ルニ右顚末書及ヒ明治四十一年七月七日附顚末書ヲ視ルニ平塚泰雄外數名ハ臨檢搜索尋問差押等ノ手續ヲ爲シナカラ其身分證明ノ證票ヲ携帶シタル旨ノ記載ナク又押捺セル印影ハ總テ其氏ヲ表顯セルニ過キサレハ結局其證票ヲ携帶セスシテ爲シタル違法ノ手續ニシテ從テ該顚末書ハ無効ナリ

判決理由

然レトモ間接國稅犯則者處分法第四條ハ訓示的規定ニシテ收稅官吏カ其證票ヲ携帶セスシテ爲シタル臨檢搜索尋問又ハ差押ヘヲ無効トナスノ趣旨ニアラサルノミナラス證票携帶ノ事實ヲ取調顚末書中ニ記載スヘシトノ文明ナケレ

ハ所論ノ如ク顛末書中ニ右事實ノ記載ヲ缺キタリトスルモ之ヲ以テ證票ヲ携帶セサリシモノト視ルヲ得ス故ニ所論ノ取調手續ニハ何等ノ違法ナケレハ其顛末書モ無効ニ非ス

6、第六條差押ハ本條ノ手續ニ從フヲ要セス

判決要旨

間接國税犯則者處分法第六條ハ差押ニ關スル規定ニアラサルヲ以テ差押ニ際シ必スシモ同條所定ノ手續ニ從フヲ要セス（大正三年四月二十一日判例）

理由略

7、第八條日没後ニ爲シタル臨檢捜索ノ効力

判決要旨

收税官吏ハ現行犯ノ場合ヲ除ク外日没後ニ於テハ臨檢捜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス而シテ此禁令ハ臨檢捜索等ヲ受クル者ヨリ何等ノ異議ヲ申立テサル場合ト雖モ亦之ヲ適用スヘキモノトス（明治三十九年十月十一日判例）

理由略

8、同條臨檢處分ト尋問手續トノ關係

判決要旨

收税官吏カ臨檢ノ場所ニ於テ犯則者ヲ尋問スルハ臨檢ノ目的ヲ達スルノ手段ニシテ該處分ト離ルヘカラサル關係ヲ有ス從テ臨檢處分ニシテ不法ナル以上ハ其訊問手續モ亦不法ナリトス（同上）

理由略

9、第十條本條ノ方式ニ違背セル尋問顛末書ノ効力

判決要旨

間接國税犯則者處分法第十條ハ顛末書ヲ作リタル收税官吏ハ之ニ署名捺印スヘキコトヲ規定スレトモ其方式ニ違背スルトキハ刑事訴訟法第二十條ノ如キ書類ヲ無效ト爲ス旨ノ制裁ヲ付セス故ニ苟クモ顛末書ニシテ眞正ニ作成セラレタルコトヲ認メ得ル以上ハ捺印ヲ缺如スルノ一事ヲ以テ直ニ無效ナリト云フヲ得ス（明治四十年十一月十一日判例）

理由略

10、同條同上

判決要旨

間接國税犯則者處分法第十條ハ立會人カ顛末書ニ署名捺印スルコト能ハサル場合ニハ收税官吏ニ於テ其ノ旨ヲ附記スヘキコトヲ規定スレドモ此ノ方式ノ

違背ニ對シテ無效ノ制裁ヲ付スルコトナシ故ニ甲立會人ノ名下ニ其印顆ノ押捺アリテ同人ノ立會ヒタルコト明確ナル以上ハ縱令乙立會人ニ於テ甲者ノ氏名ヲ代書シ其旨ヲ附記シタリトスルモ之カ爲メニ該顛末書ヲ目シテ無效ナリトイフヲ得ス（明治四十一年七月六日判例）

判決理由

11、同條第閑顛末書ノ記載方

收稅官吏カ臨檢搜索等ヲ爲シテ其顛末書ヲ作成スル際立會人ニ於テ署名捺印スルコト能ハサル場合ニハ收稅官吏ニ於テ其旨ヲ附記スヘキモノニシテ決シテ他ノ立會人ニ於テ附記スヘキモノニ非サルコトハ間接國稅犯則者處分法第十條ニ徵シテ明カナリ而シテ所論ノ顛末書ヲ査閱スルニ其末尾ニ「立會人田久保乙ヒ」トアリテ其傍ニ「代書ス」トノ附記アリ右ハ立會人田久保卯八カ附記シタルモノニシテ收稅官吏ノ附記シタルモノニアラサルコト筆跡ニ徵シテ瞭然タレハ其附記ノ方式カ間接國稅犯則者處分法第十條ニ違背スル所ナキニ非ス然レトモ同條ニハ無效ノ制裁ナキカ故ニ右田久保乙ヒノ名下ニハ其印顆ノ押捺アリテ同人ノ立會タルコト自ラ明確ナル以上ハ由シヤ附記ノ方式ニ於テ運フ所アルニセヨ之カタメニ所論ノ顛末書ヲ無效ナリト論スルコトヲ得ズ

判決要旨

收稅官吏カ犯則者ノ尋問及ヒ應答ノ顛末ヲ記載スルニハ遂次之ヲ爲スヘキヤ否ヤ法規上何等ノ明示スル所ナケレハ長時間ニ渉リタル尋問應答ヲ其終了後一括シテ顛末書ニ記載スルモ違法ニ非ス（明治四十二年十二月十四日判例）

理由略

12、第十三條收稅官吏告發ノ職權

判決要旨

收稅官吏カ犯則事件ノ調査ヲ終リタル後證憑堙滅ノ虞アルトキハ直チニ之ヲ告發スルノ職權ヲ有ス而シテ證憑堙滅ノ虞アリヤ否ヤハ當時ノ狀況ニ徵シ當該官吏ノ査定スヘキモノトス（明治三十四年十月七日判例）

判決理由

然レモ收稅官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキ證憑堙滅ノ虞アルトキハ直チニ之レヲ告發スヘシトハ間接國稅犯則者處分法第十三條第三號ノ規定スル所ニシテ其證憑堙滅ノ虞アリト認ムヘキモノナルヤ否ヤハ一ニ當該官吏カ當時ノ情況ニ徵シ之ヲ査定スヘキモノトス故ニ今本件ニ於テ當該官吏カ證憑堙滅ノ虞アリト認メ之ヲ告發シタルモノナレハ之レニ依リテ提起セラレタル公訴ハ

素ヨリ適法ノモノナリトス

13、同條同上

判決要旨

收稅官吏カ間接國稅犯則者處分法第十三條但書ノ事由アリトシテ告發ヲ爲シタル塲合ニ其書面上右ノ規定ニ依據セシモノナルコトヲ見ルニ足ルヘキトキハ其告發ハ有效ナリトス而シテ該官吏ノ認定シタル事由ハ必スシモ一々之ヲ明示スルノ要ナシ(明治三十七年八月二十三日判例)

判決理由

間接國稅犯則者處分法第十三條但書ノ規定ハ必要ノ塲合ニ於テ收稅官吏ニ直接ニ告發ヲ爲スノ權ヲ與ヘ以テ臨機ノ處分ヲ爲サシムルノ目的ニ出ツルモノナレハ其該條但書ニ規定スル特別ノ事由存スルヤ否ヤノ點ハ固ヨリ當該收稅官吏ノ認定權ニ一任スルヲ以テ收稅官吏カ該條但書ノ事由アリトシテ告發ヲ爲シ而シテ其告發ハ右但書ノ規定ニ依リタルモノナルコトヲ見ルニ足ルヘキ塲合ニハ其告發ハ有效ニシテ必スシモ收稅官吏カ一々其認定シタル事由ヲ告發書ニ明示スルヲ要スルモノニアラス而シテ本件告發書ニハ何レモ間接國稅犯則者處分法第十三條但書ニ依リ告發スル旨ノ記載アリテ收稅官吏石神賴介等カ該條但書規定ノ事由アリト認定シ緊急ノ必要アリトシテ告發シタルコトス明ナルヲ以テ右ノ告發ハ有效ナリトス

14、第十四條處分ニ基ク告發ノ法律關係

判決要旨

間接國稅犯則者處分法ニ依リ犯則者ニ對シテ罰金ノ通知ヲ爲シ其通知ニ應セサルトキ告發ヲ爲スコトハ稅法違犯罪ノ構成要件ニ非ラスシテ所謂訴訟條件ニ屬スルモノトス(明治四十一年二月二十日判例)

判決理由

間接國稅犯則者處分法ニ依リ犯則者ニ對シ罰金ノ通知ヲ爲シ其ノ通知ニ應セサルトキ告發ヲ爲シコトハ稅法違犯罪ノ構成要件ニアラスシテ所謂訴訟條件ニ屬シ之ヲ裁判所ニ訴追スル塲合ニ於テ之ヲ審査シテ其ノ條件完備スルモノト認メタルトキハ其訴訟ヲ受理審判スルノミヲ以テ足リ之ヲ判文ニ記載シテ其條件ヲ完備セルコトヲ明示スルノ必要ナシ

15、同條心證ノ意義

判決要旨

間接國稅違犯者處分法第十四條ニ「犯則ノ必證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明

示シ」云々トアルハ心證ヲ得タル所以ノ理由即チ犯則事實ノ義ニ非ラスシテ罰金科料等ノ納付スヘキ所以ノ理由即チ犯罪事實竝ニ其該當スル法條ヲ明示シテ通告ヲ爲スヘシトノ謂ナリトス（明治四十一年五月二十一日判例）

判決理由

間接國稅犯則者處分法第十一條ヲ按スルニ其條文ニ「犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ」云云トアルハ心證ヲ得タル所以ノ理由ヲ明示スヘシトノ謂ニアラスシテ罰金科料等ヲ納付スルニ至レル所以ノ理由即チ納付ノ基本タル犯則事實竝ニ其該當スル法條ヲ明示シテ通告ヲ爲スヘシトノ謂ナルコトハ前記法文ノ全體ニ徵シテ明カナリ左スレハ船場稅務署カ被告ニ對シテ發シタル本件ノ通告書ニハ犯則事實及ヒ其該當シタル法條ヲ前提ニ記載シテ被告カ罰金ヲ納付スヘキ所以ノ理由ヲ明ニシ然ル後其結果トシテ罰金千十六圓ヲ納付スヘキ旨ヲ命シタルハ適法ナル通告書ニシテ隨ヒテ檢事ノ起訴ノ有效ナルコト勿論ナリトス

16、同條資力認定ノ職權

判決要旨

酒造稅法違犯者カ間接國稅犯則者處分法第十四條所定ノ通告ノ趣旨ヲ履行スル資力アリヤ否ヤヲ認定スルハ一ニ當該官吏ノ職權ニ屬ス而シテ當該官吏カ犯則者ニ於テ該資力ヲ有セサル旨ノ認定ヲ爲シタルトキハ其有無ニ付キ適當ノ調査ヲ遂ケタルモノト認ムルヲ相當トス（明治四十二年十二月二十一日判例）

判決理由

酒造稅法違犯者カ間接國稅犯則者處分法第十四條所定通告ノ旨ヲ履行スル資力ヲ有スルヤ否ヤヲ認定スルハ一ニ當該官吏タル稅務署長ノ職權ニ屬ス而シテ當該官吏カ犯則者ニ於テ其資力ヲ有セサル旨ノ認定ヲ爲シタルトキハ其有無ニ付キ適法ノ調査ヲ遂ケタルモノト認ムルヲ相當トス故ニ藤澤稅務署長佐藤勇次郎ニ於テ被告ハ右通告ノ旨ヲ履行スルノ資力ナキモノト認メタル以上ハ適當ノ調査ヲ爲シタル上其認定ヲ爲シタルモノト判定セザルヘカラス夫ノ被告カ土地臺帳上許多ノ不動產ヲ所有スル事實ノ如キハ必シモ被告カ通告ノ旨ヲ履行スルノ資力ヲ有セサル事實認定ノ障碍タルモノニ非ラス從テ所論告發書ハ適當ニ成立シタルモノナルヲ以テ本趣意ハ理由ナシ

17、第十七條「通告ヲ受ケタル日」ノ意義

判決要旨

間接國稅犯則者處方法第十七條ニ所謂通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以內トハ犯

則者カ通告ヲ受ケタル當日ヨリ起算シ七日以内ノ謂ナリトス（明治四十二年六月四日判例）

理由略

18、同條告發書ノ方式

判決要旨

間接國税犯則者ニ對スル告發ハ間接國税犯則者處分法ノ規定ニ從ヒ爲スヘキモノニシテ刑事訴訟法ノ規定ニヨルヘキモノニ非ラス而シテ同法中告發書ニ官署ノ印ヲ押捺スルコトヲ命シタル規定ナキヲ以テ税務署長ノ告發書ニ所屬官署ノ印ヲ押捺セサルモ違法ニアラス（大正三年四月六日判例）

理由略

19、同法施行規則第二條差押物件ニ對スル封印ノ方法

判決要旨

一　收税官吏ノ差押物件ニ對スル封印ハ差押ヲ明カニシ其物件カ差押人ノ占有ニ歸シタルコトヲ知ラシムル方法ニ外ナラサレト他人ヲシテ之ヲ保管セシメサル場合ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（大正三年四月二十一日判例）

理由略

20、同法施行規則第十二條方式ニ違背セル書類ノ効力

判決要旨

間接國税犯則者處分法施行規則第十二條ニハ「犯則事件ノ調査及ヒ處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ云々」トノ規定アルモ其方式ノ違背ニ對シ無効ノ制裁ヲ付セサレハ之ヲ採用スルニ於テ何等ノ不法ナシ（明治三十九年五月八日判例）

理由略

附錄

行政法規

一、官吏ノ任免補職ニ關スル效力

判決要旨

官吏ノ任命補職ハ官報ノ掲載ニ因リ其ノ効力ノ生スルニ非スシテ當該官廳ノ職務上ノ行爲ニ由リ本人自ラ之ヲ知得シタル場合ニ於テ始メテ其ノ効力ヲ生スルモトス故ニ官報上官吏轉職ノ事ヲ掲載スルモ未タ本人ニ於テ當該官廳ヨリ辭令ノ交付ヲ受ケサルカ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之カ通知ヲ受ケサルトキハ依然舊職務ニ從事スルモ不法ニ非ス（明治三十八年五月十八日判例）

判決理由

官吏ノ任命補職ヲ官報ニ掲載スルハ其ノ辭令ノ發送セラレタルコトヲ報告スルニ過キサレハ其ノ任命補職ハ官報ノ掲載ニ依リ効力ヲ生スルニアラスシテ當該官廳ノ職務上ノ行爲ニ依リ本人自ラ之ヲ知得シタル場合ニ於テ始メテ効力ヲ生スルモノナリトハ本院判例ノ認ムル所ナリ故ニ官報上官吏轉職ノコト

ヲ掲記スルモ未タ本人カ當該官廳ヨリ辭令ノ交付ヲ受ケス若クハ其ノ他ノ方法ヲ以テシテモ其通告ヲ受ケサリシトキハ依然其ノ舊職務ニ從事スルモ之ヲ不法ト云フ可カラス而シテ本件ニ付名古屋控訴院檢事奥村靖カ明治三十八年三月四日附ノ辭令ニヨリ松江地方裁判所檢事正ニ轉職シタルコトハ同年三月六日ノ官報ニ其ノ旨掲載アルニ依リ明白ナレトモ同檢事カ同年三月八日本件公判以前ニ其ノ轉職ノ辭令ノ交付ヲ受ケ若クハ當該司法省カ其ノ他ノ方法ニヨリ其ノ轉職ヲ本人ニ通告シタルコトヲ見ルヘキ点一モ之レナケレハ奥村檢事カ本件公判ニ立會ヒシタル當時ハ未タ當該官廳ノ職務上ノ行爲ニヨリ轉職ノ事實ヲ知得シ居ラサリシモノト判定スルヲ相當トスルニヨリ奥村檢事カ名古屋控訴院檢事トシテ本件ニ干與シタルハ相當ニシテ論旨ハ其ノ理由ナシ

二、官吏ノ職務權限ノ範圍

判決要旨

官吏ノ職務權限ハ法令ノ明文ニ依リ定マルモノニシテ諭達内訓等ノ爲メニ變更ヲ受クヘキモノニ非ス（明治四十年十一月十二日判例）

判決理由

依テ按スルニ凡ソ官吏ノ職務權限ナルモノハ法令ノ明文ニ依リ定マリ諭達内訓等ノ爲メニ變ハ非ストス然而シテ煙草專賣局官制ニ依レハ本件ニ所謂領收濟原符ナルモノハ販賣所長ニ於テ作成スヘキモノナルコト明瞭ナルモ書記ニ於テ之レカ管掌ヲ爲シ若クハ分掌ヲ爲シ得可キコトヲ認メタル明文ナシ而シテ他ノ法文中所揭ノ原符ヲ書記ニ於テ作成スル權能アルコトヲ規定シタルモノ一モ存スルコトナケレハ右文書ノ作成カ被告ノ管掌若クハ分掌事務ニ非サルコト勿論ナリ左レハ縱令輸達若クハ内訓等ニ依リ事實上書記ニ於テ所揭ノ原符ヲ作成シ來リタル慣例アリトスルモ斯ハ職務執行ノ便宜上販賣所長ニ於テ自己ノ爲メ書記ヲシテ該文書ヲ代筆セシメタルニ過キスシテ右事實アルカ爲メ原符ノ作成ヲ書記ニ分掌セシメタルモノト云フコトヲ得ス何トナレハ前説明ノ如ク内訓諭達等ヲ以テ法令ノ認メサル職務權限ヲ之レカ無資格者タル官吏ニ付キ付與スルコト得サレハナリ

三、雇人ハ公務ナリヤ否ヤノ意義

刑法第七條第一項中其ノ他ノ職員ニ關スル件（明治四十二年十月九日委員會決議法曹記事第十九卷十號）

雇員ハ法令ニ依リ公務ニ從事スルコトヲ定メラレタル者ニ限リ刑法第七條第一項ニ所謂公務員ナリトス

問題

刑法第七條第一項「其ノ他ノ職員」中ニハ雇員ハ包含セサルヤ

消極說　雇員ハ公務員ニ非ス但シ法令ニ於テ公務ニ從事スルコトヲ定メラレタルモノハ公務員ト認ム（民刑局長回答四十一年八月二十二日）

積極說　裁判所構成法第二編第六章ニ廷丁ノ雇入解雇及事務取扱ニ關スル事項ヲ規定シ市町村制カ附屬員ノ任用及解職ニ關スル規定（市制第五十九條第六十三條町村制第六十三條第六十七條）ヲ置キタルヨリ觀レハ別ニ何等ノ規定ナキ雇員ハ公務員ニアラスト論結スルヲ得可シト雖モ雇員ノ處理スル事務モ亦國務ニシテ公務ナルコト疑ナキニヨリ刑法第七條ノ其他ノ職員中ニ包含セラルルコト勿論ナリ又斯クノ如ク解スルニ非サレハ公務執行ニ關スル刑法保護ノ主旨ヲ全フスルコトヲ得サルナリト（泉二新熊日本刑法論五二五頁清水澄論文本誌一八ノ七）

決　議

雇員ハ法令ニ依リ公務ニ從事スルコトヲ定メラレタル者ニ限リ刑法第七條第一項ノ所謂公務員ナリトス

理由　雇員ハ國家ニ對シテ民法上ノ雇傭關係ヲ有スルモノニシテ公務上ノ權力服從ノ關係ヲ有スルモノニアラサルカ故ニ官吏又ハ公吏ニ非サルヲ

以テ法令ニ依リ特ニ公務ニ從事スル者ニ限リ刑法第七條第一項ノ所謂公務員ト云フコトヲ得ヘキナリ（泉二學士著改正日本刑法論モ亦本文ト同趣旨ニ解スルコトヲ得ルカ如シ）

四、官吏服務規律ト雇人トノ關係

官吏服務紀律ニ關スル件（明治四十二年七月三日委員會決議　法曹記事第十九卷第十二號）

官吏服務紀律ハ普通ノ雇員ニハ適用セラレザルモノトス又明治八年第六十五號太政官達第一條第三條ハ官吏服務紀律ニ依リ消滅スルモノニアラス

問　題

明治二十年勅令第三十九號官吏服務紀律ハ同令第一七條後段ニ依リ雇員ニモ其ノ適用アリヤ

明治八年第六五號官吏商業制禁ニ關スル達ハ官吏服務紀律ニ依リ消滅シタルヤ

右御審議ヲ仰ク

決　議

官吏服務紀律ハ普通ノ雇員ニハ適用セラレサルモノトス又明治八年第六十五號太政官達第一條第三條ハ官吏服務紀律ニ依リ消滅スルモノニ非ス

理由　官吏服務紀律第十七條ノ俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ハ法令ニ依リテ公務ニ從事スル者ナルカ故ニ官制通則第二十七條ニ依リ各省官制ヲ以テ特別ニ置クコトヲ得ヘキ高等官判任官及以外ノ職員ノ如キヲ謂フ又明治三十四年勅令第七號ニ掲クル雇員ノ如キモ此類ニ屬ス然レトモ普通ノ雇員ニシテ雜役ニ從事スルニ過キサルモノハ此類ニ屬セス前掲太政官達第二條ハ官吏服務紀律第十一條ニ依リ消滅スルコトヲ認ムルヲ得レトモ同第一條及第三條ハ官吏服務紀律中ノ規定ト何等牴觸スル所ナキヲ以テ仍ホ其ノ效力ヲ有スルモノト認ム

五、官吏ハ證人トシテ職務執行地ヲ離ルル場合ニ關シ

官吏服務紀律第六條解釋ノ件（明治四十二年四月十日委員會決議　法曹記事第十九卷第八號）

官吏カ證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル爲メ其ノ職務上ノ居住地ヲ離ルルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

問題

官吏カ職務上ニ關シ又ハ一個人トシテ裁判上ノ證人トナリ其ノ呼出ニ應セン爲メ自然職務上居住地ヲ離ルル場合ハ官吏服務紀律第六條ニ依リ本屬長官ノ許可ヲ受クルヲ要スルヤ否ヤニ付左ノ兩說アリ

積極說　官吏カ職務ヲ盡スノ義務ハ絕對無限ナリ即チ畢生ノ力ヲ注キ專心一意其ノ職務ニ盡奉ス可キモノトス而シテ官吏カ本屬長官ノ許可ナクシテ職務ヲ離ルルコトヲ得ス又職務上居住地ヲ離ルルコトヲ得サルハ皆此ノ義務ニ負フ結果ナリ（官吏服務紀律第一條第六條）官吏カ職務上又ハ一個人トシテ裁判上ノ證人トナリ出頭スル場合ト雖モ職務上居住ノ地ヲ離ルルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受クルヲ相當トス何トナレハ本件ノ場合ハ許可ヲ要セストノ除外例ナク官吏カ國家服務規律權ノ下ニ服スルハ絕對無限ナレバナリ

消極說　裁判上ノ證人タルノ義務ハ國家司法權ニ服從スルヨリ生スル公法上ノ義務ニシテ法律ニ規定アル場合ヲ除クノ外證人トシテ呼出シヲ受ケタルトキハ何時ニテモ出頭スルノ義務アリ而シテ證人呼出狀ノ送達ト出頭ノ間二十四時ノ猶豫アレハ足ル（刑事訴訟法第百十五條第二項）カ故ニ積極說ニ從ヒ許可ヲ受ケンカ爲ニ呼出ニ應スルコト能ハサル場合ナシトセス果シテ然ルトキハ司法權ノ動作ヲ妨クルニ至ル可シ本問題ノ如キハ一般ノ法理ニ照シ本屬長官ニ於テ之ヲ許否スル權能ナキ本質ノモノニ對シ故ラニ許可ヲ請フ必要ナシ顧フニ官吏服務規律第六條ノ許可ヲ要ス

ルモノハ許可ヲ待テ進退シ得ヘキ性質ノモノ（多クハ私事ノ場合）ナリト解セサル可カラス

附記　官吏カ擅ニ職務上居住スヘキ地ヲ離ルルトキハ服務上弊害ヲ生スルニヨリ禁止シタルモノニシテ法律上出頭ヲ強制セラルル本質ノモノニ對シ許可ヲ受ケシムル必要ナシ積極説ヲ採ルトキハ法令ノ衝突ヲ來シ害アリテ利ナク本件ノ如キハ官吏服務紀律第六條ノ範圍外ト見ルノ外ナシ故ニ餘ハ消極説ニ左袒セント欲ス

右貴會ノ解決ヲ仰ク

決　議

官吏カ證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル爲メ其ノ職務上ノ居住地ヲ離ルヽトキハ本屬長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

理由　本屬長官ハ其ノ部下官吏ノ證言ヲ拒ミ又ハ出頭日時ノ變更ヲ請求スルコトヲ得ル場合アリ（民事訴訟法第二九〇、第二九八第一號、第三〇一條第一項但書、同第二九三條後段、刑事訴訟法第一一七條後段參照）

此ノ場合ニ於テハ職務上ノ居住地ヲ離ルヽト否トヲ問ハス豫メ本屬長官ノ許可ヲ得ルコトヲ要スルハ勿論ニシテ特ニ説明ヲ要セス

法律ハ本屬上官ニ上叙ノ如キ權能ヲ認ムルヤ否ヤヲ明示セサルヲ通例トス本質疑ハ此ノ場合ニ付テ最モ重要ナル關係ヲ有スルヤ疑ナシ蓋シ官吏服務紀律ノ規定ハ法律上ノ義務ヲ否認スルノ効ナキコト勿論ナリト雖トモ官吏ヲシテ法律上ノ義務ヲ行フ爲メ職務上ノ居住地ヲ離ルヽニ當リ本屬長官ノ許可ヲ得セシムルハ法律上ノ義務ノ履行ヲ否認スルモノニ非スシテ而シテ同紀律第六條ノ規定ハ啻ニ官紀廢弛ノ弊ヲ避ケントスルノミナラス事務上ノ支障ヲ豫防セントスルモノナルカ故ニ何レノ場合ニ於テモ許可ヲ得セシムル趣意ナリト解セサルヘカラス從テ本屬長官ノ許可ヲ得ルコト能ハサルニ因ル不參ハ正當ノ理由ニ因ルモノトシテ處罰ヲ免ルヘキモノトス若シ夫レ本屬長官ニ至リテハ前段ニ説明シタル場合及ヒ其ノ他法令上認メラルヽ場合ノ外其ノ許可ヲ拒ムコトヲ得サルヘク若シ不法ニ許可ヲ拒ミタルトキハ寧ロ間接行爲者トシテ罰金ノ言渡ヲ受クルコトアルヘキナリ

大正五年八月一日出版
大正五年八月七日發行

（定價金六拾錢）

著述者　前田龜太郎

發行者　秋田縣由利郡本莊町表尾崎町十七番地
長田常三郎

印刷人　秋田縣由利郡本莊町裏尾崎町六十番地
本間英次郎

印刷所　秋田縣由利郡本莊町裏尾崎町六十番地
長田活版石版印刷所
電話五三番

發行所　秋田縣本莊町表尾崎町
長田精華堂
振替東京壹五參四壹番

68
654

終